

日立電鉄線跡地

新交通導入事業



～新しいまちづくりへの第一歩～

日立市

日立市の概要

- 関東平野の北端、茨城県の北東端に位置。
- 東は太平洋の海岸線を臨み、西は阿武隈山系が連なり、温暖な気候と海・山の豊かな自然に恵まれた地形。
(南北) 25.9km (東西) 17.9km (面積) 225.55km²

- 日立製作所の発祥の地
- 鋳工業を中心とする『ものづくり』のまち
- 公害問題に対し、植栽した『桜』が市の花
- 南北の海岸線には6つの海水浴場
- 全国で唯一のウミウの捕獲場



現状と課題(人口と都市構造)

《人口》

- 人口減少、少子化の加速 (人口18万人台へ)
- 高齢化の進展 (高齢化率26.5%は全国平均を上回る)
- 人口流出減少が顕著 (大規模事業所の分社化等)



図 人口推移 [日立市総合計画]

《都市構造》

- JR常磐線、国道6号、常磐自動車道が縦断
- JR常磐線5駅を中心に市街地が形成
- 高度経済成長期に西側丘陵地に住宅団地が開発

現状と課題(交通環境)

《道路》

- 交通の多くは南北移動
- 慢性的な道路交通渋滞
(旅行速度は県内最低レベル)

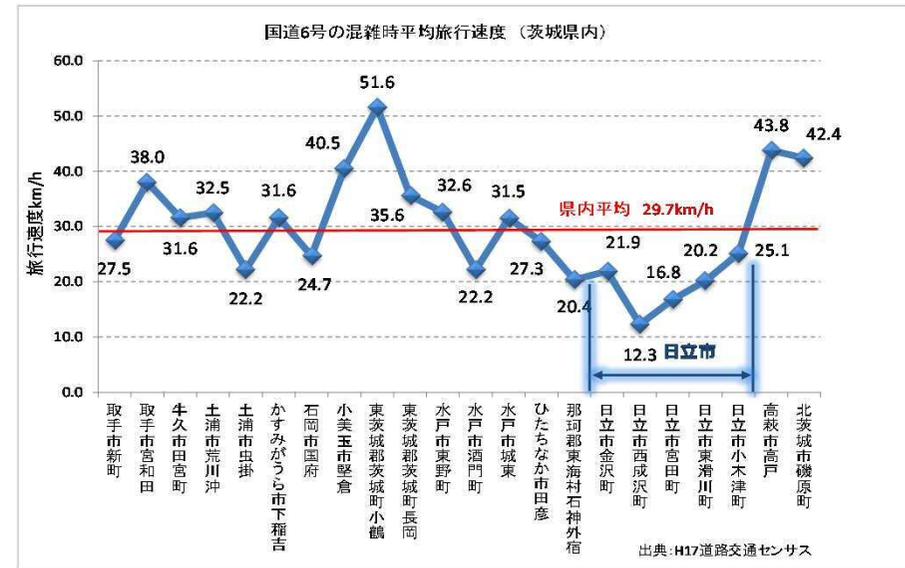


図 国道6号の混雑時平均旅行時間 (茨城県) (H17道路交通センサス)

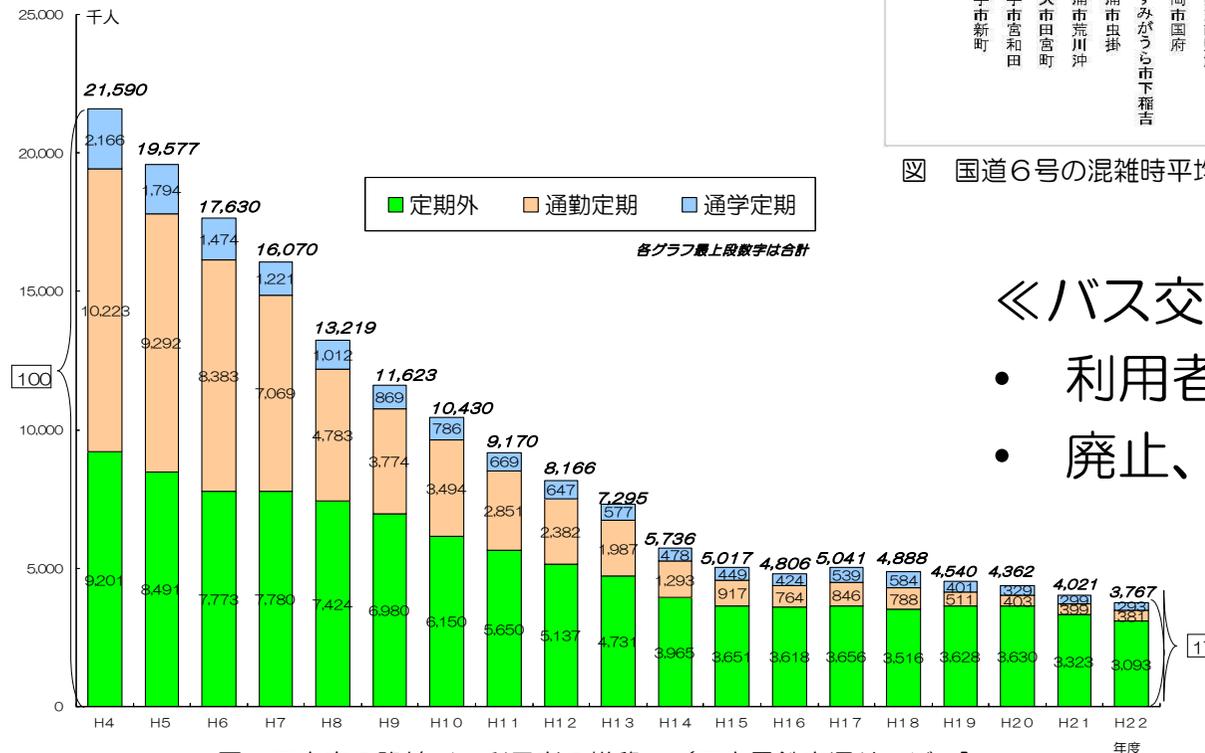


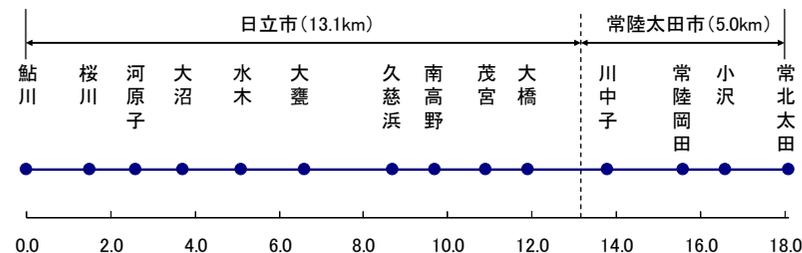
図 日立市の路線バス利用者の推移 (日立電鉄交通サービス)

《バス交通》

- 利用者は減少傾向 (約20年で1/6)
- 廃止、減便・縮小の可能性

日立電鉄線の歩み

- 昭和2年 常北電気鉄道（株）設立
- 昭和3年 大甕駅～久慈浜駅間（2.1km）運行開始
- 昭和4年 久慈浜駅～常北太田駅間（9.4km）運行開始



- 昭和16年 （株）日立製作所の経営傘下に入る
- 昭和19年 日立電鉄（株）に社名変更
- 昭和22年 大甕駅～鮎川駅間（6.6km）運行開始 ※全線開通

- 昭和41年 単線自動信号化全線完成
- 昭和44年 列車運行制御装置CTC全線完成
※私鉄業界では本格導入は初
- 昭和46年 全国初のワンマン電車導入

- 平成8年 ATS設備全線全車両導入
- 平成17年 廃線

- 平成20年 寄付等により日立市が跡地を取得
- 平成21年 日立電鉄線跡地活用整備基本構想を策定
- 平成23年 新交通導入計画を策定 ※後述

平成23年3月 東日本大震災

- 平成23年10月 第Ⅰ期区間（大甕駅～久慈浜駅間）工事着手
- 平成25年3月 第Ⅰ期区間供用（運行）開始



全体計画概要 (新交通導入計画)

1 計画概要

- 計画区間 鮎川駅～久慈浜駅 (約8.5km)

2 整備計画

- 単線のバス専用道路 (4m) と歩道 (3.5m) を併設
- 旧鉄道駅間に新しい停留所を配置 (約700m間隔)
- 停留所や待避所で車両すれ違い
- JR駅や公共公益施設等へ接続

3 運行計画

- 運行ルート 日立駅～日立港都市再開発用地
- 運行距離 約13km
- 運行頻度 最大70往復

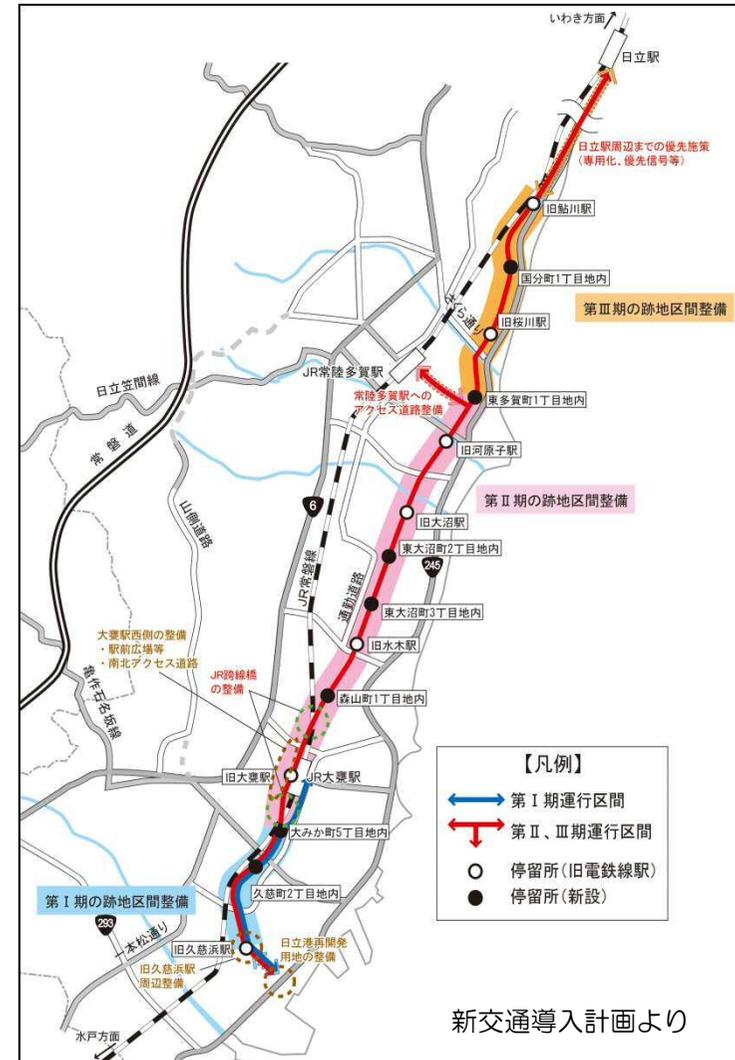
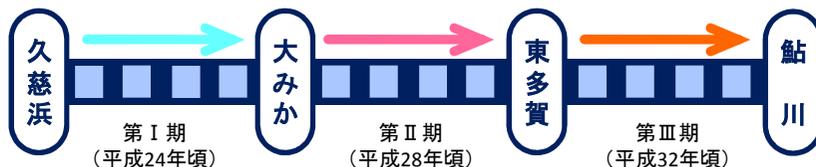
4 整備方式

- 公設民営方式 (基盤整備は市、運行は交通事業者)

5 需要予測

- 約2,800人/日

※ 全区間運行時の跡地内利用者推計値



道路混雑の軽減

自動車交通量 最大3.1%減少

- 導入による自動車交通量2,800トリップ/日減少。通勤通学時は900トリップ/日減少。
- 主要幹線道路（R245）のピーク時とオフピーク時の交通量の差は約7%

環境負荷の低減

CO₂排出量 13%削減

- 自動車交通削減量の半数がR245で減少し、旅行速度が35km/hに改善されたと仮定
- 交通量の削減と旅行速度の向上により、R245の自動車走行によるCO₂排出量は15t/日

移動性の向上

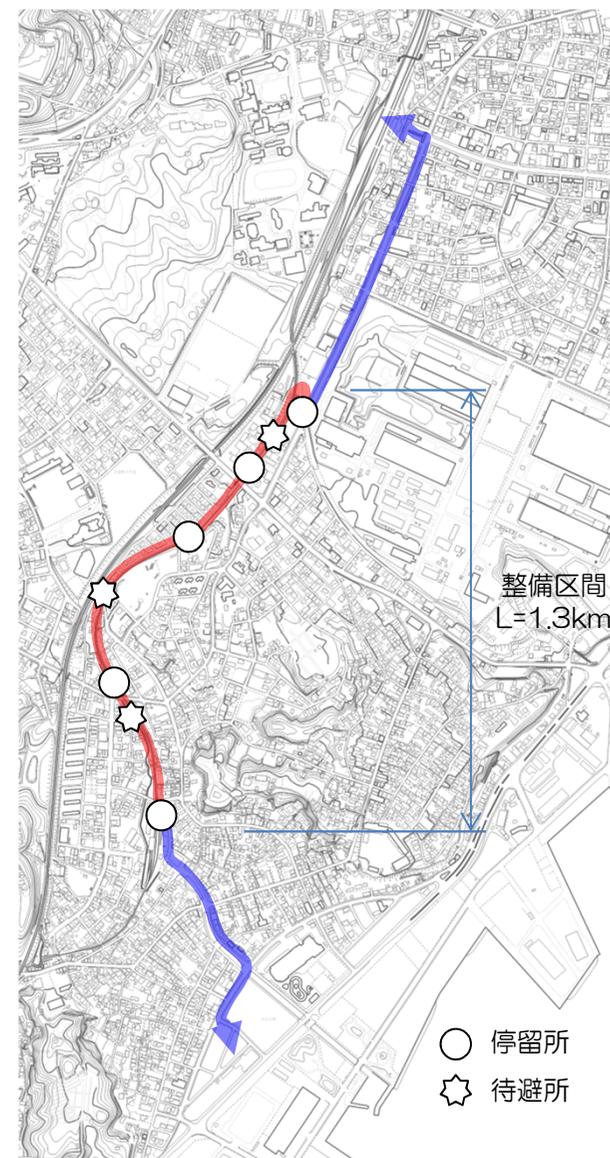
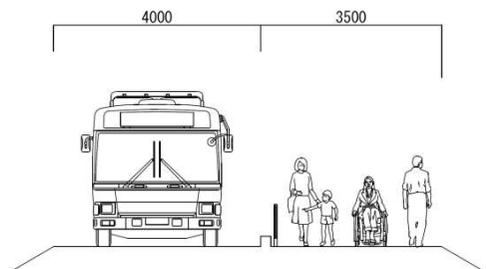
移動時間 40%短縮

- JR大甕駅からJR常陸多賀駅までの路線バスは、約26分で運行（遅延時は40分）
- BRTの場合（停留所を7箇所設置）、旅行速度20km/hで試算すると約15分

第 I 期区間の整備概要(バス専用道路)

1 バス専用道路

- 吹上通り～久慈浜駅(約1.3km)
- 標準幅員7.5m(バス専用道路4m、歩道3.5m)
- 専用道路間に停留所5箇所、待避所3箇所(車両すれ違い)



第 I 期区間の整備概要(関連施設)

2 交通ターミナル

- 起終点にバスターミナルを整備（他交通との乗り換え等）
- 約7,300㎡
- バスターミナル、多目的広場、普通車駐車場（64台）、大型車駐車場（5台）、トイレ等

3 交通広場

- 南部図書館脇に乗り換え用駐車場等を整備
- 約1,400㎡
- C&BR用駐輪場（48台）、P&BR用駐車場（19台）、鉄道記念モニュメント

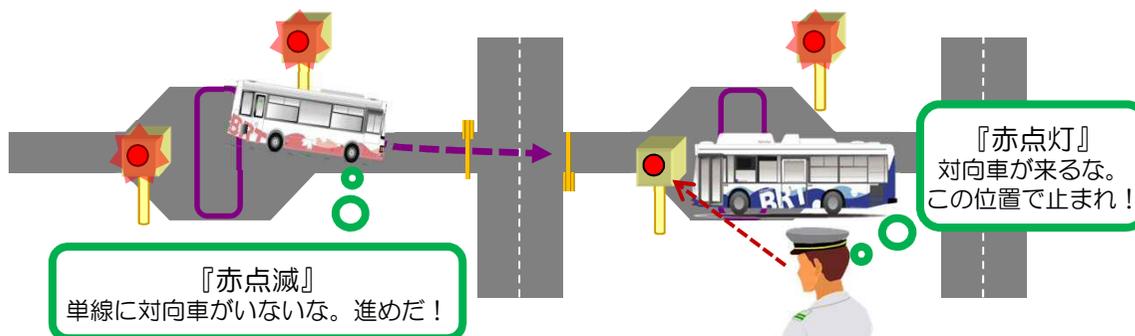
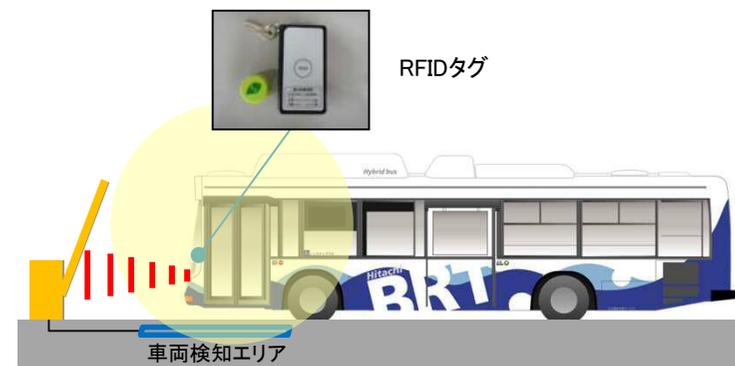


1 主な機能

- 機能① 一般車両の誤進入を防止するため、指定車両を判別し、バースゲートを自動開閉
- 機能② 停留所にいる利用者に対し、車両が接近していることを音声及び表示パネルで案内
- 機能③ 運転手に対し、目視困難箇所に対向車の存在を信号機等で案内

2 特徴

- RFIDタグや有線LANの活用により、通信費や整備費が縮減
- 運転手の追加操作がなく、運行時の安全性が確保
- 太陽光発電を利用した施設により、環境負荷が低減



1 低公害車両の導入

- 大型ハイブリッドバス1台、中型ディーゼルバス(低燃費・低排出ガス認定車)1台

2 車両デザイン

- 公募作品(185件)から、菊池珠瑠さん(日立商業高等学校)の作品を選定
- 原作を基に、山本早里 筑波大学芸術系准教授がデザインを監修

ひたちの特徴である『海』と『桜』をモチーフに暖かみの色調統一感があり、新しい乗り物という連想できるデザイン

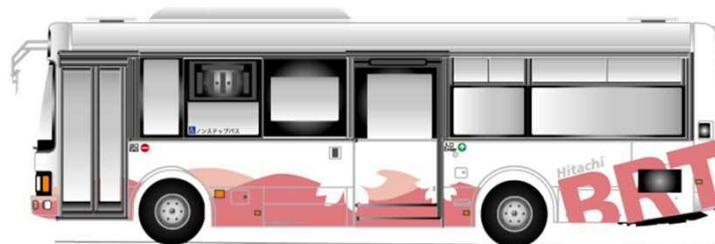


原作を基に『ひたちの海』をデザイン
元気がでる色調、濃淡

ブルーラピッド

上記デザインを活かした桜バージョン
古風でも趣のある古色を採用

サクララピッド



1 組織設置

- 地域住民、沿線にある企業・高校・商業観光事業者等が参加（22団体）
- BRTの利用促進及び地域の活性化を図る

2 活動内容

- 運行ダイヤ、停留所の配置及び名称、車両デザイン等を検討
- 地域資源の再発見のため、『ひたちBRT沿線マップ』を策定
- 開通記念イベントの企画、実施



沿線マップづくりワークショップ



味覚まつりでのPR



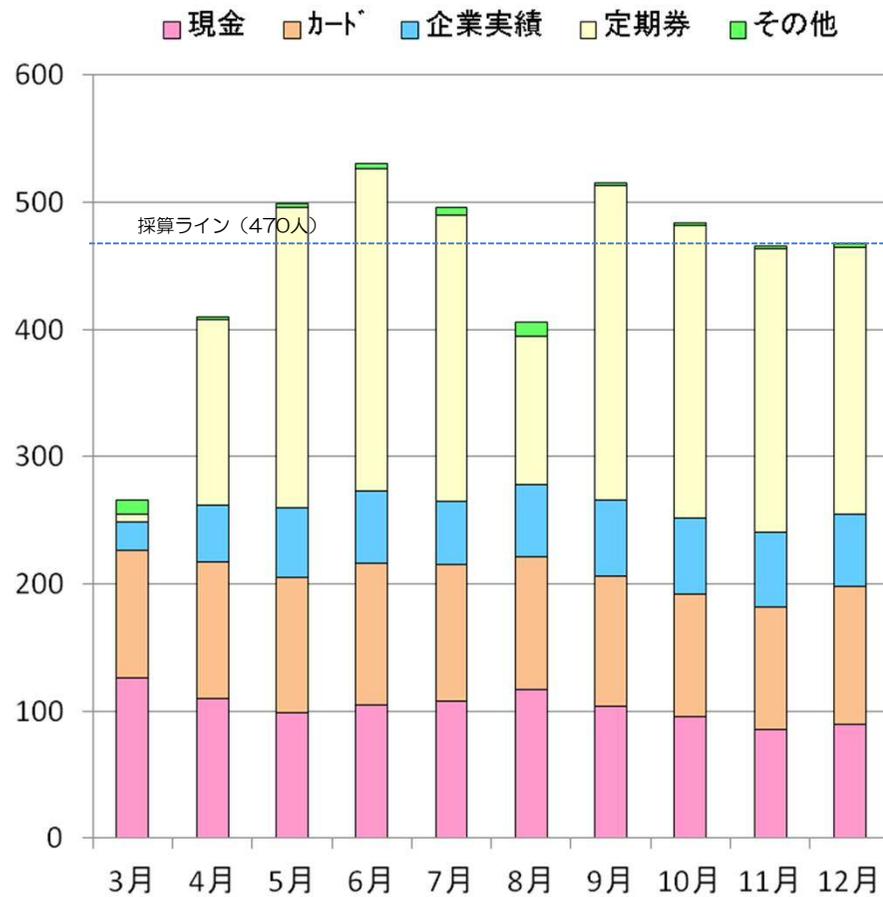
開通記念イベント（体験試乗会）



開通記念イベント（ひたちBRTウォーク）

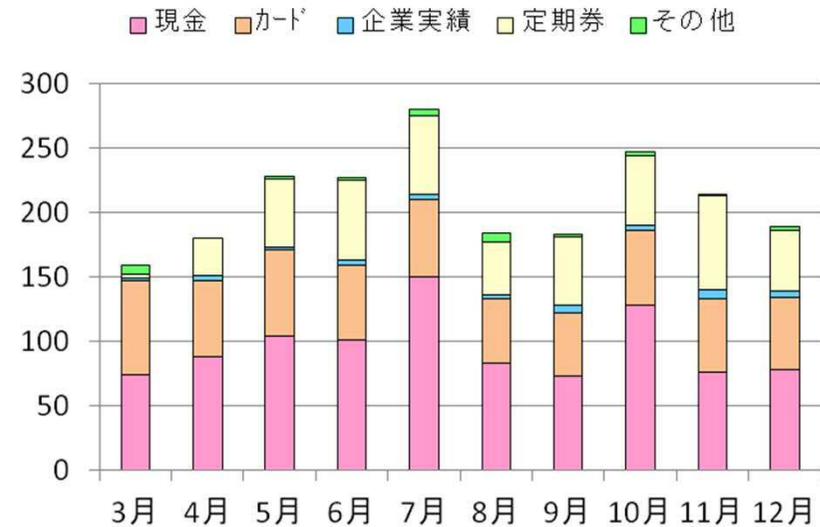
月別日平均利用者（人/日）

平日



日立電鉄交通サービス（株）提供

土日祝日



Hitachi BRT

日立市 都市建設部公共交通政策課

茨城県日立市助川町1丁目1番1号

TEL 0294-22-3111 (内線778)

E-mail kotsu@city.hitachi.lg.jp